

第1回熊本市動植物園マスタープラン推進会議 議事録【要旨】

日時：令和3年（2021年）11月15日（月） 9時30分～12時

場所：熊本市動植物園 動物資料館レクチャールーム

議 事

- ・熊本市動植物園マスタープランの進捗について

《委員（出席者）》6名（1名欠席） ※役職順、五十音順

- | | |
|-----------------|------------------|
| ・佐藤会長（神戸どうぶつ王国） | ・飯村副会長（熊本県立大学） |
| ・伊藤委員（東海大学） | ・太田委員（市民公募） |
| ・副島委員（熊本大学） | ・村上委員（株式会社ヒトコト社） |

《事務局》

- | | |
|--------------|--------------|
| ・永田部長（観光交流部） | ・外山園長（動植物園） |
| ・村上副園長（動植物園） | ・松本副園長（動植物園） |

議事録（要旨）

議 事

- ・熊本市動植物園マスタープランの進捗について

テーマ1「驚きと新たな発見！いきものミュージアム」について

＜委 員＞

今年度の取組の音声ガイドアプリ導入について、来園者の行動のデータ取りに活用できる見込みはあるか。

＜事務局＞

本アプリは基本的に全ての動物の前で音声ガイドを行うことを目的としているが、お尋ねの内容についても検討させていただく。

＜委 員＞

音声ガイドアプリはタブレットでの利用は可能か。熊本市の子供たちは一人1台タブレット端末を持っているため、利用できるならば教育委員会と連携して学びに繋がると思われる。

<事務局>

学校で配布しているタブレット端末での使用については確認を行い、教育委員会とも活用について連携していきたいと考える。

<委 員>

季節ごとに生態が変わったりすると思う。日常的なところで内容が少しずつ更新されていくとリピーターなどにも良いのではと考える。

<委 員>

アプリの内容と更新作業の担当について教えていただきたい。

<事務局>

更新作業は職員が行い、基本的には個体紹介というより全般的に野生動物の背景が分かるようなもの、学びに繋がるものを考えている。

<委 員>

アプリで動物の研究状況や、置かれている環境について継続して情報を得ることは可能か。

<事務局>

まず、確定している情報を提供することから始め、情報の更新については日頃から協力を頂いている大学等と連携して進めたいと考える。

<委 員>

自然学習については専門的な要素が多いため、動物学の専門家の配置についても必置であると考ええる。

<委 員>

来園者は、とても深い内容を知りたいのと同時に、面白いものでないと見る人が限られてくると思われる。専門家が分かりやすく伝える取組と、より深く学びたいと思える人に応えられる仕組みを本アプリで実践していただきたい。

<委 員>

環境エンリッチメントの取組について、その後の評価について示されたい。

<事務局>

実施した取組が動物福祉に寄与しているかの検証の必要性は強く認識しており、現在、東海大学と共同研究のもと取り組んでいる。今後、研究的な視点を持って動物に対するアプローチをしていくという考え方を根付かせていきたいと考えている。

<委 員>

職員が調査研究に取り組みやすい環境整備や、研究と業績評価についてはどのような認識を持っているか教えていただきたい。

<事務局>

できる限り予算の確保を含め環境整備に努めたいと考える。

テーマ2「江津湖との調和。水辺動植物園を再び」について

<委 員>

動物資料館や水辺のインフォメーションセンターを運営する上で、学芸員が必要と思われるが今後学芸員を配置する予定はあるか教えていただきたい。

<事務局>

現段階では学芸員の配置はないが、重要なポストだと考えており、今後人事当局に配置を求めていきたいと考える。

<委 員>

動植物園は江津湖畔にあり、江津湖は生態系としても熊本の中で重要な位置づけであると思うが、その生態系を再現又は利用するような展示の予定があるか教えていただきたい。

<事務局>

今年度整備する水辺のインフォメーションセンターにおいて、江津湖の魚や水草の展示を予定している。このエリアは無料施設であるため、まずは動植物園と江津湖を結ぶ場所として活用したいと考えており、ご提案のあった生態系の展示については、今後園内で展開できればと考える。

<委 員>

水辺のインフォメーションセンターについて、リピーターを増やすためにはいかに普通の人を巻き込むかが大事だと考える。他の自治体で成功されている方々から情報収集して仕掛けをつくっていただきたい。

<委 員>

多くの来園者の方は第一の目的として楽しみに来ている。教育を上段に構えるのではなく、楽しみながら学べる作りにしていけばリピーターが増える可能性は高くなると考える。

テーマ3「優しさと魅力あふれる動植物園づくり」について

<委 員>

正面ゲートはただ新しいだけでなく何かワクワクするような、また定期的に変わるというような仕掛けがあるといいと思うが、どのような計画があるか教えていただきたい。

<事務局>

正面ゲートにはウェルカムスペースを作り、そこで情報の発信や企画を実施したいと考える。

<委 員>

新設する水景施設では水遊びは可能か教えていただきたい。

<事務局>

水景施設は湧水をイメージしたもので、子どもたちが水遊びできるものとしている。

<委 員>

新設する遊戯施設について、動物への影響や配慮がされているのか教えていただきたい。世界的に動物の近くに配置する施設は配慮が求められている。

<事務局>

遊戯施設は動物エリアから離れた立地を考慮しており、騒音があまり出ない機種を導入したいと考えている。

テーマ4「愛され続けるための運営体制の強化」について

<委 員>

動植物園の置かれている状況が一般の方に伝わっていないと感じる中で、ボランティアとして何が出来るのか、何をして欲しいかなどのボランティア募集に関する情報発信の現状を教えていただきたい。

<事務局>

現状では発信があまりできていない。また、組織化もできておらず、イベント時にご

協力いただく形にとどまっている。ボランティアを希望される方のニーズの把握や、やりがいを感じていただける体制づくりを検討したいと考えている。

<委 員>

大学生は就職活動前にボランティア体験を求めていると聞く。県内の大学に情報提供して連携していくことで、動植物に興味がある方だけでなく裾野が広がるのではないかな。

<委 員>

ボランティアのあり方や仕事の属性を分類しながら、こういったスキルがあると良いのかといった整理を進めていくと運営もし易くなるのではないかな。また、ボランティアが活性化することで園の職員の負担も減り、新たな取り組みに時間を充てるといった好循環が生まれるのではないかな。

<委 員>

学生だけでなく一般企業との連携も可能だと考えるが、そもそも動植物園でボランティアが可能と知らないと思われるため、地元の企業を対象にPRしてみてもどうか。

<委 員>

歳出削減の項目で人件費が大幅な減となっている。今後の園の運営はしっかり人材を確保し、教育して将来に向けて専門性を高めていくという事が大事と考えるが、園の考え方をお伺いしたい。

<事務局>

市の方針として、民間にできることは民間にという考えがある。該当する人件費削減は、入園門の業務をアウトソーシングしたものであり、飼育や植物に関する専門分野の人員を削減したものではない。

<委 員>

動植物園という公的な施設で、自主財源比率を半分にするという考えは適切なものなのか。動植物の維持管理には費用が掛かり、それを入園料等の負担で賄うのはかなり厳しいと感じる。もっと市の負担があってもよいと利用者側の立場からは感じるが、いかがか。

<事務局>

確かに本市の動植物園で自主財源比率の半分を目指すのは難しい状況ではあるが、動植物園をより魅力的にし、来園者を増やしていく上の目標値として本目標を掲げている。

<委 員>

コレクションプランを策定、運用していく上で動物の専門家の配置が必須であると考ええるが、いかがか。

<事務局>

専門職の配置は必要という認識の下、人事当局には要望を伝えている状況ではあるが、人事配置の問題等もあり、引き続き当局に対し専門職の必要性や組織の体制について議論を進めていきたい。

「コレクションプラン」について

<委 員>

動物の入手について、国際的な連携の中、各施設間同士で交流するというのが多く、各地域協会の中で適切に動物を飼育するためのガイドラインというものがある。現在、日本動物園水族館協会においても適正施設ガイドラインを策定しているので、これらを踏まえた上でコレクションプランを策定する必要がある。他国との連携を前提としてコレクションプランを策定、運用していくこととなるため、動物に対する福祉の提供といった観点に特に注意して進めていただきたい。

<委 員>

植物のコレクションプランの考え方について、江津湖の生態系を考慮するならば、個々の種の希少性だけでなく種の組み合わせが大事になってくるため、そのあたりの視点も基本的な考え方に加えていただけないかと考える。

<事務局>

ご指摘のあった点について、今後委員のご意見を伺いながら進めていきたいと考える。

総括

<会 長>

動物園の今後のテーマは保全と福祉のため、保全に関する部分を今後しっかりと考えていただきたい。また、SDGsに関する事をもっと包括的に盛り込む必要がある。日本では動物園に年間約7～8千万人の方が来られているわけであり、そこに対して発信すると非常に効果があると思う。こういった事をいかに一般の人たちに伝えられるかというのも動物園に求められる今後の大きな機能であると感じる。

なお、営業活動の中でインバウンドに触れていないため、現在インバウンドは厳しいかもしれないが、過去にどの位来園されていて、恐らくもう2年もすればインバウンド

も回復してくると思われるので、そこに対する考え方も加えていただきたい。